

青嵐（あおあらし）とは、「初夏の木々の葉をゆすって吹くやや強い風」、「青々とした山の気」などの意味がある言葉です。逗葉高校を吹き抜けるさわやかな風と、生徒の皆さんのたくましさをイメージしました。第9回は、分かれようという気持ちです。

逗葉高校の皆さん、平成29年度が始まりました。毎年4月には、これから一年間、あれやこれや、良いことも大変なことも取り混ぜて、様々なことを経験する（あるいはせざるをえない）時間がたっぷりがあると、気持ちが新たになります。

でも、たぶん一年過ぎてしまえば、なんとあっという間の一年だったかと、感じるようになるのだろうと想像がついてしまうのですから、我ながら進歩がない姿を想像しているなあなんて苦笑してしまいます。

校長通信「青嵐」は、高校生として大人になる準備をしている皆さんへ、私という一人の大人からのメッセージとして、不定期に発行してきました。平成28年度中に、第10回くらいまでは発行したかったのですが、なかなか書き上げることができませんでした。

という訳で、今年度は「第9回」から始まります。毎回、基本的には子供扱いしない内容で、メッセージを伝えたいと思って書きました。学校の様子をメインに伝える通信ではなく、文字数も多いので申し訳なかったけれど、メッセージを発信するのも校長の仕事なのだろうと、お付き合いいただけると嬉しいです。

さて、この冬もインフルエンザが流行し、本校でもA型とB型の両方に感染した人や、予防接種をしたにもかかわらず感染してしまった人もいたようです。ようやく、流行も落ちついて、ほっとしています。

インフルエンザは感染力が強い感染症で、症状が悪化すると肺炎や脳症などの合併症で亡くなる人もいるほどです。歴史上では、1918年から1919年にかけて「スペイン風邪」と呼ばれる（当時としては）新型のインフルエンザが爆発的に流行し、その間の世界人口の50%が感染したと見積もられ、2000万人以上が亡くなりました。この世界的大流行（パンデミック）は、第一次世界大戦の終結を早ませたともいわれ、世界史に大きな影響を与えたこととなります。

19世紀の後半になるまで、人々は感染症の原因や、有効な予防手段が分からず、恐れ、祈ることで感染症の流行が終息するのを待ちました。日本でも、疫病（感染症）は、超自然的な力を持つ疫神の祟りや罰が原因と考えられ、人々は神仏を静め、難から逃れるために、祭礼や祈祷、まじないなどを行いました。その名残は、今でも各地の祭りや儀式に残っています。

私たちは、理由の分からないものや、いつもとちがう状況を認識すると、不安を感じ、それを解消したいと考えます。それは生物が生き延びる上で大切な本能です。分からない・ちがう＝危険という可能性があるわけですから、まずは用心しないとはいけません。

問題はその先です。その「分からないものや状況」を、分からないままでよいと、見ない振りをするのか。分からない＝危険（または悪）と決め付けて、一方的に恐れたり責め

たりするのか。分かる努力をして、より適切な対応をしようとトライするのか。

どの道を選ぶのかによって、先の展開は大きく変わってきます。

見ない振りを続ければ、不安はいつまでも残るでしょう。未知なるものに恐れを抱くことは大切ですが、ただ恐れるばかり、責め立てるばかりで展望がひらけるとは思えません。結局のところ、分かろうと努力し、何ができるかと考え、失敗を恐れず積極的にトライしてみることが、不安を解消するための正攻法であり、近道なのだと思います。

昔の人が感染症から逃れるために行なった様々なまじないや祈りも、不安を解消するためのトライだったのでしょう。そして、その中から選ばれた有効な手立てが、民間医療となり、さらには現在の高度な予防医療へとつながってきているのです。

分からないという不安を、分かりたいという気持ちに変えることで、私たち人間は発展してきました。分からないという不安を放置しない姿勢(感染症もその一つの例です)が、大切だということです。

この事は、人間関係にも言えるように思います。私たちには他人の心は見えません。私たちの周りにいる人は、何を考えているのか分からない存在です。そんな分からない相手と社会生活をするということは、誰にとっても不安なことなのです。

だからこそ、相手を分かろうとする努力、自分を知ってもらおう努力が必要です。お互いのことが少しでも分かれば、友情も生まれるでしょうし、あるいはうまく争いを避けることもできるでしょう。

心を開いて分かり合える真の友を見つけることもできるかもしれませんが。一方で、距離をおいたほうが無難な相手というの、いつでもどこにでもいるのが普通です。ただ、避けるにしても、分からないという不安の裏返しとして、いたずらに拒否したり排斥したり、ましてや憎んだりすることはやめて欲しいのです。

それぞれに個性があるのですから、時には共感し、時にはぶつかり、理解し合えた喜びを味わうこともあれば、分かり合うのは難しいと諦めることもあるかもしれません。

それでも大切な事は、自分以外の人間が存在するという事を認め、相手のことを分かろうと意識すると同時に、自分のことも知ってもらおうと働きかけること。たとえ今はダメでも、急に何か(相手かもしれない、あなたかもしれない、環境かもしれない)が、変わるかもしれません。そうして生まれた関係を大切に、お互いを尊重しあうことです。

いよいよ新しいクラスの仲間や新しい先輩・後輩たちとの新しい一年間が始まります。分からないという不安を放置せずに、分かりたい、知りたいという気持ちを持って、まずは元気にあいさつを試みてください。

皆さんが、人間関係の豊かな日々を送れるよう応援しています。

平成 29 年 4 月 7 日
校 長 大貫 晶子